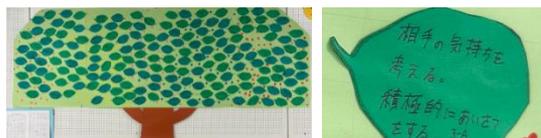


## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組 1】(A 中学校)

年間計画の中で、人権教育を教育活動全体に位置付け、系統的に指導を行った。例えば、「人権の木」の取組を行った。この取組は、生徒が人権を守るための行動目標を葉に記入した後、学年全員の葉を廊下に掲示するとともに、2週間に1度のペースで振り返りを実施するという流れで行った。その結果、生徒アンケート（6月実施）では、「学校や学級は安心して授業や学校生活を送れる場所だと感じるか」という質問に対して、約89%の生徒が肯定的な回答をした。



#### 【取組 2】(B 中学校)



「人文字当てクイズ」や「ドッチボール大会」をクラス対抗で実施したところ、生徒アンケート（6月実施）では、「みんなで何かをするのが楽しい」という項目に対して、全ての学年において、90%以上の生徒が肯定的な回答をした。

#### 【取組 3】(A 中学校)

理科の授業で、自己決定の場の提供（自己調整ができる）や、安全・安心な風土の醸成（自分のペースで学べる）を意識し、単元内自由進度学習を実施した。授業では、「①個人進度表で目標を立てる」、「②自由進度学習を進める（実験をする、動画を視聴する、教科書等を読んでノートにまとめる、インターネット等で調べる、ドリルやワークに取り組む、ICT教材を活用して確認プリントに取り組む、分からないことを友達や教員に質問する）」、「③個人進度表で振り返りを行う」という流れで学習を進めた。

確認プリント 学習内容	動画	ドリル/ワーク	教科書
1 気圧と圧力	なし	10-1 圧力	172~177
実験1 サイロキネシスと真空術	あり	10-1 圧力	175
2 気象要素	あり	10-2 気象観測1	168, 169
3 天気図記号	あり	10-2 気象観測1	180
4 乾湿度計の使い方	あり	10-2 気象観測1	182, 183
検証1 乾湿度計を使う	あり	10-2 気象観測1	182

#### 【取組 4】(全巡回担当中学校)

不登校対応巡回教員が不登校の未然防止の取組の具体例や、生徒指導を意識した授業のポイントについてまとめ、校内掲示板で他の教員と共有した。

## 多様な学びの場を確保する取組

### 〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

#### 支援会議（C 中学校）

校長・副校長・各学年の不登校担当の教員・養護教諭・SC・SSW・不登校対応巡回教員というメンバーで隔週の実施をした。事前に不登校担当の教員や管理職で、生徒の状況を把握した上で議題を決めて実施した。また、当該生徒がつかがっている機関や、指導・支援の記録を全てデータベース化し、会議の前や最中に確認することで情報共有を効率化し、支援方法の検討を充実させた。

#### 校内別室における支援（D 中学校）

校内別室にパーテーションを設置したり、生徒同士のコミュニケーションを図る機会を設定したり、オンライン授業を実施したり、授業や学校行事の付き添い支援を行ったりした。

このような支援により、不登校生徒・不登校傾向生徒の登校日数が増加した。

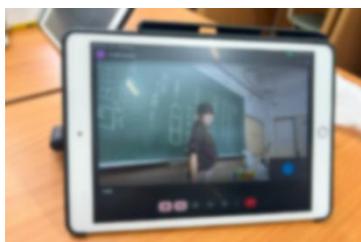


#### アウトリーチによる支援（A 中学校）

生徒の意思や保護者の意向を確認しながら、学級担任による家庭訪問を継続的に実施した。また、面会時などに聞き取った情報は校内で共有するなどしている。

#### デジタル機器を活用した支援（C 中学校）

教室の授業をオンラインで接続し、家庭や校内別室で授業に参加することができるようにした。また、デジタル学習教材を自習に活用した。



#### 関係機関との連携（A 中学校）

SCやSSW、小学校との情報共有を行った。その結果を踏まえ、中学校への登校に不安を抱える小学生が中学校入学前に校内別室を見学したり、関係職員と面談を行ったりできるようにした。

また、教育支援センターでの生徒の様子について情報交換を行った。

## 成 果

関係機関とつながったことで、どこにもつながっていない生徒数が減少するとともに、不登校生徒の登校日数が増加した。

## 課 題

別室の環境整備やルールづくりを行うとともに、不登校生徒の支援会議の効率化や小学校と中学校の連携を強化する必要がある。